

国際交流インストラクター育成を通じた学生の内発的自己発見教育

佐々木寛

- はじめに——NHK「ハーバード白熱教室」(M. サンデル)ブームに寄せて
- 今さら?——参加型・ワークショップ型・プロジェクト型・実践型教育の重要性
- 「国際交流インストラクター演習」(前期)「ワークショップ実践論」(後期)の概要
- 担当教員: 小林元裕・松雄瑞穂・神長英輔・(安藤潤) / 小宮山智志
- 事業推進員: 神戸優香里・野澤紘子
- 映像上映①: インストラクター研修の様子——約1分30秒
- ※ 講師の「子どもの意見を引き出す力」について
- 映像上映②: 実際のワークショップの様子——約2分30秒
- ※ 今年の佐渡市立羽茂中学校での児童労働をテーマにしたWSの様子。
- 様々な国の児童労働の状況を学生が調査し、現地の児童労働を強いられる子どもの語り口で台本化グループにはそれぞれ国名がチーム名とされており、台本をグループごとに読み合っている様子。次にチームの代表が他の生徒にもその台本を読み、『その国で労働をしているある子どもとして』内容を紹介している様子。子どもが円になって課題に取り組んでいる姿、学生が司会をし、生徒に前で発表している姿。
- 当該取り組みの成果と意義(通常の講義科目への応用可能性)
- ・参加者の学習意欲&学習効果の飛躍的増大(+他の授業科目への波及)
 - ・総合的な知的応用力や実践的なコミュニケーション能力の涵養
 - ・他者と協力しながら目標を達成する力の涵養(グループワークによる他者=自己発見)
 - ・地域社会・外部とのつながりによる社会性・社会貢献意識・キャリアイメージなどの涵養
 - ・専門の異なる複数教員による協同作業の意義 など。
- おわりに—— 当該取り組みの今後の課題

三十一

身近な品に潜む問題

教室に

市に於て、新選立立派に
 学識を以ての事なり、然るに
 澤田國太郎博士の著述は、
 一トハ、通達に於ける、
 「ト」スルハ、の所見に
 非ざる。
 大抵、著者は「漢語通釋」は
 人々ハ、誤解を爲す。因
 に誤解を以て、
 漢語を、
 之に非ざる。「ト」ハ、
 「ト」ハ、
 之に非ざる。

「――を携帯せよと云ふこと
 だれぞ。
 大學生・田中ひろと云ふの
 言ふ。この携帯の進化には
 る方便者がいます。それが
 アメタリ。波電や充電部分
 と云つてゐる。その語を

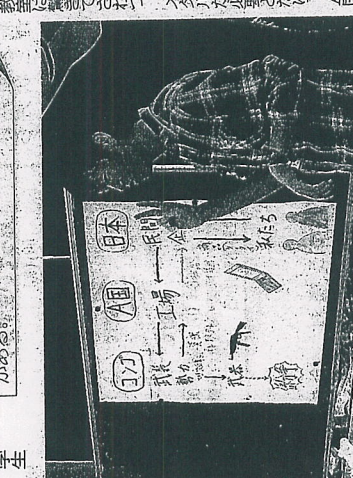
きょうのテーマ

レシメタルとは、英語で希少な金属の意。日中間の問題で話題に上る「レアアース」（希土類）も、レアメタルの一種だ。アメリカでは石油やダイヤモンドなど天然資源が紛争の種になることが指摘され、レアメタルも例外ではない。資源乏しの日本では、日本でもレアメタルと目せられる。日本でもレアメタルと目せられる。日本でもレアメタルと目せられる。

紹介 紹介から。1998年以降、陸軍、反政府組織に同化された戦争の影響で治安が不安定、住民は今も武装勢力の手に取られる。戦争で約540万人とされ、その一、新鴻県の人口の2.5%。

大学生は、シアタールの
を描いた寸劇を始める。
日本では最新鋭の携帯が
気。増産のためメーカー社
A国へ飛び、部品を発注。

島嶼がコノ国民主和國の國は、シマタル「タ」などの産地だ。お金が入る側が「これ」武器が「これ」とはよくぞまわつてゐる。

[illegible]



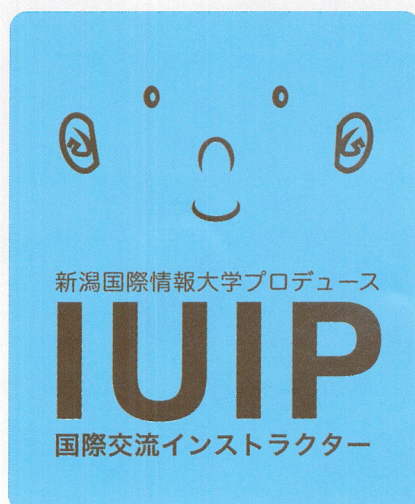
地域の国際化を推進する 参加型実践教育

「国際交流インストラクター」の養成・派遣による
小中学校・高校の国際理解教育推進プログラムの展開

平成19年度 文部科学省
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択
～地域活性化への貢献(広域型)～



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies



平成19年度、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」※に、新潟国際情報大学の取組が選定されました。この取組は、大学生を国際交流インストラクターとして養成し、小中学校・高校に派遣して、「異文化理解」、「世界の現実」、「世界の不平等」等のテーマで、ワークショップ形式の国際理解教育を行うものです。これにより、地域社会の国際化・活性化を推進します。

※「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」とは、各種審議会からの提言などを踏まえ、社会的要請の強い政策課題（地域活性化への貢献、知的財産関連教育など）に関するテーマを設定し、これに対して各大学、短期大学、高等専門学校が計画している取組の中から、国公私を通じて優れた取組を選び、サポートするものです。

協力団体

本取組は次の各団体との密接な協力・連携によって成り立っています。

- (財)新潟県国際交流協会 ●国際協力機構(JICA)地球ひろば新潟デスク ●新潟県知事政策局国際課 ●新潟県教育庁
- (財)エイ・エス・エフ日本協会新潟支部 ●(財)新潟市国際交流協会 ●にいがたNGOネットワーク ●新潟大学国際センター ●青年海外協力隊新潟県OB会
- 敬和学園大学 ●新潟県立大学

取組の概要

新潟は、北東アジアと密接につながる本州日本海側の「表玄関」であり、近年の経済・文化交流の増進は、地域の国際化に対応する人材の養成を強く求めています。本取組は、この地域的ニーズに応えるべく、新潟国際情報大学が、県内の地方自治体、国際協力組織、小中学校・高校、地場企業、NGOといった多様なアクターとの協力・連携によって、ワークショップ形式で国際理解教育を行う「国際交流インストラクター」を養成し、県内小中学校・高校に派遣することで、地域社会の国際化、活性化を推進する参加型実践教育プログラムです。小中学校・高校でのワークショップの実施によって、学生は国際社会に関する基礎・専門知識を習得しつつ、コミュニケーション能力・チームワーク能力を身につけ、児童・生徒は国際社会への関心及び学習意欲を高めます。この人材育成と地域の国際化推進の独創的な試みをNUISモデルと名付け、県内外の大学へ広く発信していきます。

選定理由(文部科学省発表)

本取組は、大学の立地する新潟県の特性に着目し、学生を国際交流インストラクターとして育成し、県内小中学校、高等学校に派遣し、地域社会の国際交流意識を喚起し、以って地域活性化を目指すという意欲的な学生教育プログラムと認められます。国際交流インストラクターという資格を付与することは、学生の学習意欲を引き出す効果的な工夫といえます。参加学生の体験を勉学にフィードバックさせることで、非参加学生への教育効果も見込まれます。教員養成以外の場面で小中学校、高等学校に学生を派遣するという教育実習的な試みには、新規性、独自性を見出すことができます。さらに学生が専門知識を持たない他の人にプレゼンテーションをするという試みは、学生の学習効果に好影響を及ぼすものと評価できます。本取組を展開するには、NPO法人などの多様なアクターとの協力・連携が必要ですが、これまでの実績もあり、計画どおりの成果が上がるものと期待できます。学生に彼らが生活する地域と国際社会の関係性を再認識させるという着眼点も意欲的なものと判断できます。



ご挨拶

新潟国際情報大学学長 平山 征夫

平成19年度現代GPプログラムに採用された本学の「国際交流インストラクター」養成の取り組みも年を重ねるごとに一層充実した内容になっています。小中・高校にインストラクターを派遣し、ワークショップ方式で国際理解協力を行うものですが、「国際化時代に役立つ人材を育てる」ことを建学の精神としている本学にとって、その教育目的を達成する有効なプログラムとなっています。

また、このプログラムの実行を通じて学生は、考える力、伝える力、協力し合う力を身につけていくことが期待され、併せて、行政や国際協力組織、地域との関わりは、社会や地域との連携という大学に投げられている現代的課題に対しても、有益な取り組みとなっています。

現代GPによる国際理解活動が、併せて平和の大切さの理解促進にも寄与することを信じております。



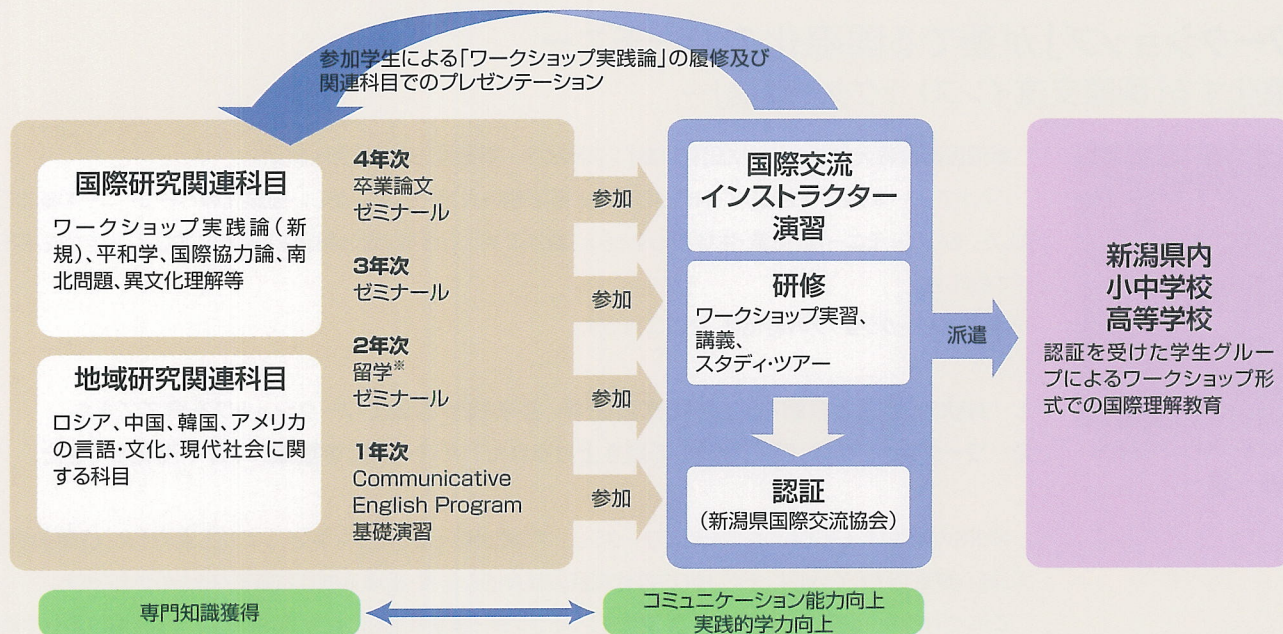
事業推進責任者

新潟国際情報大学教授 佐々木 寛

ワークショップという共同作業を通じ、ふだんは学ぶ場所を異にする大学生と小中高校生たちとが共に学び合う——。この手探りの試みは、平成15年度よりスタートし、これまで当初に予想された以上の反響やご好評をいただくことができました。厳しい訓練を受け、「インストラクター」として派遣される大学生、そして彼らのワークショップに参加する児童や生徒の真剣なまなざしと満面の笑顔が、本事業の「すべて」です。本当に良いワークショップとは何か。真に生き生きとしたコミュニケーションとは何か。この終わることのないテーマを追いかけてながら、本事業はこれからも日々進化し続けます。「百聞は一見にしかず」です。まずは、みなさんの教室や職場、さまざまな集いの場に、ぜひ学生たちをお招きください。参加者の自発性や創意を活かした、新しい教育(コミュニケーション)のあり方を、きっと体感できると思います。



教育課程に組み込まれたインストラクター養成プログラム



※ 留学先は、ロシア、中国、韓国、アメリカ(2年次後期)及びカナダ(2年次以上夏季 6週間)

本取組では、国際交流インストラクターの養成・派遣を、国際教育と地域研究教育を軸とする本学の教育課程に組み込み実施しています。

具体的には、まず講義や演習・ゼミナール科目、留学などを通して、学生の国際研究への関心を喚起したうえで、国際交流インストラクターを募集します。志望する学生は、「国際交流インストラクター演習」を履修します。そこでワークショップ実習、海外スタディ・ツアー、学内外の講師による講義によって構成される研修を受けます。研修を修了した学生は、新潟県国際交流協会より、国際交流インストラクターの認証を受け、国際交流協会が募集・選定した県内小中学校・高校で、児童・生徒に対してワークショップ形

式での国際理解教育を行います。トピックの選定や授業準備、教材作成、さらに対象校との打ち合わせは、新潟国際情報大学国際交流インストラクター事業学内委員会の指導のもとで、全て学生によって行われています。

国際交流インストラクターの認証を受け、学外で経験を積んだ学生は、「ワークショップ実践論」で、他の履修学生と共に、学内でのワークショップ形式の授業に参加します。参加学生にはさらに国際研究関連科目(平和学、国際協力論、NGO論、南北問題等)で、関連するトピックのプレゼンテーションを担当し、自分が身につけた実践的学力を非参加学生にフィードバックします。

国際交流インストラクターの声

- 他者とともに考えるという貴重な経験を得ることができました。
- この活動に参加することで、成長することができたと思います。
- 他の人に「伝える」ことの難しさと重要性を実感しました。
- 就職活動においてアピールすることができました。
- 自分自身の視野が広がりました。



先生方の声（派遣先学校の教員アンケートより抽出）

- 「学校」、「食」、「環境」のカテゴリーは、国際理解を進めていく上でとても良い窓口だったと思います。
- ねらいをしっかりともち、そこに迫る活動。手立てを考えていくようにすると、さらにより活動になりそうです。
- 資料がたくさん用意されていて、わかりやすい。
- 生徒たちと同じ子どもが学校に行けず、働かなくてはならないという内容を紙芝居などで分かりやすく伝えていただけて良かったです。
- 学生さんは積極的で、受け入れる私の方がもっと積極的にアイデアを出せば良かったと思いました。
- 講座を受けている時の子どもたちの目の輝きが違いました。
- このプロジェクトの「参加型実践教育プログラムによって、学生は国際社会に関する基礎・専門知識を習得しつつ、コミュニケーション能力・チームワーク能力をつけること、児童生徒は国際社会への関心と学習意欲を高めること」という目的は、十分に達成できていたと確信いたしました。
- 今後も同様の取組を継続していくべき（全派遣校）。

「ワークショップ」が奏でる国際化のハーモニー ー進化する「国際交流インストラクター事業」ー



上越教育大学大学院教授
釜田 聡

新潟国際情報大学 (NUIS) の国際交流インストラクター事業は、3年目を迎えました。

これまで、ワークショップを通じて、NUISの学生と各学校の児童・生徒が、美しい国際化のハーモニーを奏でてきました。そのハーモニーは、児童・生徒の心をとらえ、数々の笑いと感動、知的興奮を引き起こすなど、大きな成果をあげてきました。

NUISのワークショップの特色は、次の二点です。

- 1 NUIS (学生と教職員) と各種支援団体、各学校が協働でワークショップを育ててきた。
- 2 ワークショップは、実践を通じて磨き上げられた「実践の知」を基盤に、日々進化してきた。

NUISの学生は、「子どもたちのためにワークショップを成功させよう」とワークショップの充実のため、時間を惜しまず、誠心誠意努力しています。また、NUISの教職員の献身的な支援・指導体制は特筆すべきものがあります。

こうしたNUISの姿勢がある限り、国際交流インストラクター事業は進化し続けるはずで、今後とも数多くの学校関係者の協力を得て、新潟県内各地に国際化のハーモニーを奏でることを期待しています。



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

お問い合わせ 新潟国際情報大学 国際交流インストラクター事業室
〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL.025-264-3012 FAX.025-264-3016
E-mail iuip@nuis.ac.jp URL <http://www.nuis.ac.jp/iuip/>